慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	宮本又次氏著 近世商業組織の研究
Sub Title	
Author	伊東, 弥之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1940
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.34, No.1 (1940. 1) ,p.139(139)- 144(144)
JaLC DOI	10.14991/001.19400101-0139
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19400101-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

産財は、彼等が和人等との交易により、個人的活動の結果として獲得された純然たる私有財産であり、且つそのものの使用により、自己の勞働の成果として生産された舟、猟その他の生産財は、當然その人の私有財産であらねばならぬ。かくしてアイヌ土産の商品化は、市場の發達と相俟つて、徐々にではあるが、最も確實に、消費財と生産財との兩極面から、可成り尚殘存せる總有的封鎖經濟の徹底的崩壞を工作し始めたのである」（一八九―九〇頁）。「かくて生活は總有より私有へ。だが、それは亡びゆく民族への最後の拍車ではなかつたであらうか」（二四一頁）。

以上が、私が理解した限りにおいて、本書の筋道であると做される章句である。これが著者の眞意に添ふところであるか否かは不明であるが、その孰れなるにせよ、右だけを以てしても、アイヌの社會經濟生活の推移の一面は理解され得よう。本稿の最初にも言及したやうに、從來研究の十分でなかつた點に着目しての勞作が、本書なのである。從つて、それが猶處々に荒削りの感を與へる點を藏するとしても、それは本書がこの領域における先驅的研究なるがためにこそ帶びるところであつて、これによつて本書の持つ價値が減ずることにはならない。私は、前記Johnsen 教授の著作にも匹敵すべきものが、教授の手によつて送り出される日のあるべきことを期待して止まない者である。

宮本又次氏著「近世商業組織の研究」

伊東彌之助

現在の商業組織は一の變革期に到達してゐる。周知の様に、商業組織の合理化といふ問題は今日此頃の問題でなく、既に事變前に於いてその行詰りは相當深刻な程度にあつた。商人過剰の問題、百貨店・小賣商の問題、大産業による商人排除の問題、消費組合との對立問題等々が山積して居り、就中、産業者側と消費者側の兩方面よりする商人排除の傾向は、その將來に對し極めて悲觀的觀察さへ生んだ。そこへ此度の事變である。必然に物資の統制が勵行される。戰爭遂行上、物資の生産を增大せねばならぬ。然し物價は元の儘であらねばならぬ。原料高・勞働賃銀の騰貴は勢ひ生産者物價の騰貴となり、それは或程度容認される。認めねば生産擴大が不可能となるのみならず、その阻害にさへなる。然るに他方、これを消費者の手に渡す時は元通りの價格であらねばならない。戰爭遂行の政府は大なる消費者である。從つて價格の騰貴することあらんか、そは戰爭遂行を阻害する事甚しい。かくて生産者に對しては或程度の騰貴を認め乍ら、消費者には元の定價を以て支拂はせる。その間の間隙は誰の損失となるか。云ふ迄もなく、中間配給組織に從事する人々から、それを捻出せねばならない。物價政策の犧牲となるものは、外でもない商業人なのである。統制政策による組織の變更はこの部面に向つて强行されんとしてゐる。

他方、現在の商業組織は合理化の最も後れたる部分とされてゐる。生産者から消費者への配給過程には、非常に多くの商人が介在する。又非常に狹隘なる地域に、非常に多くの小賣商が互に鎬をけずつてゐる。然しこれは一朝一夕に成立したものではない。この組織は銀行・會社・工場の如く、明治維新後、海外より輸入され、發展したものではなく、德川時代より繼承された長き歴史を持つ。勿論、維新變革後の經濟的發展が商業組織に變化をあたへた事は甚だ大きい。封建的封鎖的な制度・施設一切は取除かれ、交通の發達、金融機關の完備、更に外國貿易の隆盛によつて、商業は繁忙となり、その取引圏は擴大され、その數量・金額は多くなり、更に一國經濟上に於ける商業の地位にも大なる變化はあつたが、商業組織の根本に於いては、他の諸産業に比して、より歴史的・傳統的なものを多く持つてゐた。商業組織の改造は長い懸案であつたが、一向捗どらぬのは、一にそれが歴史的・傳統的存在であつたからである。然し現下の狀勢は最早、この問題に猶豫をあたへない。商業組織變革とそれに從事せる人々の處置の問題は、今や焦眉の問題となつた。

この時に當つて商業組織の史的研究は、甚だ意義深いものとなつてくる。嘗つて經濟史といへば商業史を聯想した時代があつた。丁度、明治二十年代であつたが、その時に遠藤芳樹氏の「日本商業志」、菅沼貞風氏の「大日本商業志」、更に横井時冬氏の「日本商業史」が相次いで公にされた。然しそれ以後、商業史研究は長日月のうち二三を數へるにすぎず、殆んど後續を絶つてしまつた。今日、商業組織の危機に際し、再び活潑なる研究が求められる。こゝに紹介せんとする「近世商業組織の研究」なる新著は、嘗て「株仲間の研究」を發表された彦根高商教授宮本又次氏の著す所である。本書は、前著の如き未開拓の分野に、大なる構想を以て執筆されたものでなく、極めて啓蒙的な、新奇の說を含まぬ概說的書籍であるが、それだけに正に再び興らんとする日本商業史研究者に、格好の指針をあたへる。

本書は德川時代に於ける商業組織を種々なる角度から說明する。全體を二部に分ち、第一部は近世商業の研究、第二部は問屋の研究である。先づ第一部の近世商業の研究は八章に分れ、近世の機構と商業、近世の都市と商業、近世の商人、近世の商家使用人、近世商人の株仲間、近世の商業利潤、近世の商品配給組織及び近世の商業文書の順に配列され、第二部問屋の研究は近世の問屋、近世問屋取引の型式、近世問屋取引に於ける仲立人及び大阪荷受問屋とその衰頽の四章に分つてゐる。前者を以て德川時代商業組織の輪郭を示し、後者を以てその商業組織の中心をなした問屋取引機構を說明する。その各章は細かな注意を、その題目の全體に行屆かせて、公平にあまねく叙述し、而かも極めて平易である。著者はその序文で、本書を論文と概說的參考書の中間を行くものたらんと欲したと云ふ。蓋し學的良心を持つた概說的著作と解するが、その點、著者の意途は成功してゐる。本書を商業史研究者に、特にその初心者に推奬する所以である。

扨その各章が細かな注意を以て、あまねく叙述してゐる一例を示さう。どの章をとつても差支へはないが、現在問題になつてゐる配給組織に關聯して、第一部第七章近世の商品配給組織を取上げる。この章は三節に分れ、配給商品、配給範圍及び配給過程をそれ〴〵說明する。配給商品に於いては、先づ近世に於いて都市の消費生活が複雜多面化するに從ひ、商品生産物の購入が一般的慣習化したこと、他方自給自足を本則とした農村に於いても、藩奬勵の特産物の生産に漸次力を入れ、それらは貢米と共に藩財政補塡の一手段として、藏屋敷を通じて流通過程へ放出されたことが說かれ、都市に於ける商品種類、取扱量及び重要商品を紹介し、終りに貿易品にも觸れる。配給範圍では封建制度の基調たる領域經濟の實際的實行手段たる津留について先づ述べられ、次でそれあるにも拘らず、

城下町中心の經濟圏が漸次幕府直轄都市中心に、全國的に擴大される過程。然してそれら都市のうち、特に大阪が重要であり、大阪の問屋・仲買、或は卸賣市場・投機市場にて決定せられた價格は、種々の通信機關により各地に傳達され、或は株仲間・仲間・座の結成により一市場を形成することが說かれる。又配給過程にあつては第一にその經路が採り上げられ、全國に涉る海運に初つて、陸運・湖上及び河川交通に及び、次で配給系統に入り、當時の商品を藏物・納屋物・舶來物の三に分け、そのうちを更に主要商品別に、圖示を以てその系統が見易く示される。以上はこの章の全貌であるが、この紹介はその內容を云々せず、著者の叙述方法の綿密さを例示したにすぎない。いづれの章もこの第七章と同樣に、新奇な意見はないが、確實・廣汎に叙述せられてゐる。

然してその說明が廣汎に、全國に涉つて目を向けてゐるのみならず、とかく從來劃一的な名稱を以て說明され勝ちであるものを、土地々々の呼稱を以て述べられてゐるのは、初心者にとつて便利である。例へば諸物品問屋については、第二部第一章で兵庫・新潟・大津・大阪・赤間ヶ關・清水・尾道の例をあげてゐるが、兵庫では諸問屋、新潟では大問屋、大津では荷問屋、大阪では荷受問屋、赤間ヶ關では萬問屋、清水では船問屋、尾道では惣問屋、若くは濱問屋と呼ばれる樣に、各地の慣習に基き示してゐる。これは索引を利用する事によつて、容易に商業史用語を知る便宜ともなる。更に初心者にはその註によつて、その項目に關する既刊論文の殆んど凡てを知る便宜もある。蓋し著者はそれ程、廣く諸著を參照してゐるからである。

更に商業史研究に一歩前進せんとする人にとつて、本書の近世の商業文書の章は有益である。その章では商業文書のうち、最も無視され易い賣判書・買判書と仕切書、送り狀と手板帳、荷物預り札及び荷爲替證文が、圖判を參考に說明されてゐる。これらは近世の商家使用人中に說明されてある奉公人請狀と共に、最も多く現在まで殘存せるにも拘らず、多くは一片の紙片にすぎないから、顧り見らるゝ事が少ない。之等を蒐集し綜合した研究は未だ多くなされてゐないから、この章の熟讀は極めて有意義である。然し敢へて望蜀を云ふならば、書冊となつてゐる商業文書、例へば大福帳の如き、或は仲間帳の如きの解說も附け加へてありたかつた。

然し以上の紹介を見る樣に、本書の記述が極めて劃一的に整然としてゐる事は、他方說明に多少の無理を生ずる場合がある。それは第二部の如く、問屋の發生、機能、衰頽を分けて說ける所はよいが、第一部第三章の近世の商人中、その社會意識に關する件、或は第五章の株仲間に關する一部等で、德川時代を通じて劃一的な說明をなしてゐる場合である。即ち德川時代は身分社會である。身分的支配の下に、統一と秩序と調和とが保たれ、その意味で共同社會的性質を持つてゐる。從つてそこには保守的・傳統的精神が、各身分層に徹底してゐたといふ見地に立つて、說明を試みる。一例を商人意識の說明から示さう。宮本氏は云ふ。「商人の活動する部面は、個人對個人の取引の面で、給付對反對給付の交換原則が支配する所であり、而も計量と打算との嚴然とせる所であつた。算盤に合ふ合はぬがその指導原理であり、引き合ふこと、儲けることがその理想であつた。」然し當時は分限といふ意識が、强い拘束力を持つてゐたと云ふ。「この『分限』を一歩にても踏み出せば、即ち『不埒之儀』となり、『新規』『新法』となつて排擊せられた。されば假令商業の本質上、他の部面に於けるよりも營利原則が幾分早くより目覺めてゐようとも、當時の商業關係者が、かゝる社會意識の埒外に逸脫することは不可能と云ふべきであつた。」當時の商人は分限意識の下に行動したから、飽くなき猶太人的な貪慾を未だ持つてゐなかつた。德川時代の商人はかくて新規を否定し、親護りの家業・家職に專念し、實意を以て商賣する事を心懸けた。從つて株仲間・仲間の成立も「商人の心裡に、自分一個のみが餘りに儲けすぎる事は全體との調和上、冥加に惡いと云ふ感じが巢喰ふてゐたから」であり、その

原理は新規・新法を避け、「一分之了見に申立間舗事」を遵守するにあつた。といふ風に說明する。然しかく德川時代を劃一的に取扱ふ事は、果して當を得たものであらうか。德川氏が天下に覇を唱へてから、實質上の身分的封建制を確立するまでにも數十年を閲してゐるし、更にその身分社會の箍が緩んで、身分的秩序が混亂に陷入つてからも數十年を經過する。商人の立場についても同樣である。德川初期の商人は和蘭と共に海外に活躍した冒險商人の子孫であり、戰國の諸侯と戰火を交へた堺の商人の子孫である。彼等にかゝる保守的精神を見出し得たらうか。更に亦、當時多くの武士が商人に轉化した。三井氏の越後屋、山中氏の鴻池は有名である。彼等は德川末期の旗本の如くに、喰ふに困つて商人になつたものではない。彼等には自負があり、誇りがあつた。亦、德川末期の商人には大名に膝を屈せしむる富限者を出さしめた。その生活の餘裕は驅つて多くの文化人を輩出せしめた。彼等は士と交り、勤王運動の黒幕ともなつた。德川時代は「一の過渡期の樣相を呈」するとは、宮本氏も本書の初めに云つてゐる。かゝる時代を劃然と一の身分社會と規定して取扱ふ事は、何としても危險である。

とは云へ、宮本氏がかゝる論文集的な形式を以て、概說的參考書たらしめんとするには、かくならざるを得なかつたであらう。その各章は德川氏の身分的封建制下の典型に於いて、說明せんとしたものであらう。その意味に於いては異議を差挾む餘地は全く無い。唯、歷史は常に停滯せるものでなく、發展せるものである。本書の如き、近世商業組織の橫斷的研究も必要であるが、發展史的研究方法も亦、重要である。氏は商業史の通論的な、而して啓蒙的な概論を著す事を、目下の念願として居らるゝ由である。以上の理由によつて、その速やかなる完成を期待して止まない。

前號（第三十三卷第十二號）目次

◎斷種法の理念とその人口政策的意義　寺尾琢磨
◎有限會社經營上の若干の問題　小高泰雄
◎ケインズの「一般雇傭理論」　千種義人
◎エドウヰン・R・A・セリグマン教授逝く　三邊清一郎
◎經濟文獻解題　高橋誠一郎
一千八百八十三年版フランシス・デーヴィ・ロング著『チョーザ氏の「進歩と貧困」及びミル氏の賃銀理論の批判的檢討』
◎ミックヴィッツ「十六世紀レヴァルの貿易」　高村象平
——Gunnar Mickwitz, Aus Revaler Handelsbüchern. Zur Technik des Ostseehandels in der ersten Hälfte des 16. Jahrhunderts. (Helsingfors. 1938.)——
◎Evans Lewin, The Germany and Africa. 1938.　山本登
◎三田學會雜誌第三十三卷後半總目次

◎一冊定價金五拾錢　郵稅金壹錢五厘
◎半ヶ年分金貳圓九拾錢〕郵稅共
◎一ヶ年分金五圓四拾錢〕
◎編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限
昭和十四年十二月廿五日印刷納本
昭和十五年一月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
第十三卷第四號
編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

禁轉載

發賣元　東京市芝區三田二丁目一番地　丸善株式會社三田出張所　電話三田(45)一一九二六番　一一九二七番　振替口座東京一一八五二番
●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す
發行所　東京芝三田慶應義塾內　理財學會　振替口座　慶應義塾　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番